

日本の文化を味わおう

くらしの歳時記 ⑧

七五三

和文化研究家 三浦康子



七五三は、3歳・5歳・7歳の子の健やかな成長を祝う行事。11月15日に晴れ着姿で社寺に詣でる習わしがありますが、もとは、公家で行われていた髪置き、袴着、帯解きという列々の儀式でした。

3歳の髪置きは、それまで衛生面などを考え剃っていた髪の毛を、伸ばし始める儀式。男女ともに行われていましたが、現在は女兒のみという地域が多いようです。頭に真綿をのせ、白髪になるまで長生きするよう願う風習があります。

5歳の袴着は、男児が

初めて袴を着ける儀式。宇宙や勝負の場を表すとする碁盤に四方を制するようその上に立ち、着付けをしたり、四方を拝んだり、吉方へ飛び降りる習わしもあります。

7歳の帯解きは、女兒が幼児向けの兵児帯を結ぶ着物から、本式の帯を締める着物になる儀式。帯を締めて一人前とみなされました。

これら3つの儀式をまとめた七五三が民間に浸透していった背景には、「七つ前は神のうち」という考え方があります。これは昔は医療などが未発達で乳幼児の生存率が

低かったため、7歳までは神からの預かりものなので何をしてもバチはあたらぬが、魂が定まっていけないのでいつ亡くなってもおかしくない、というものです。

子どもを無事に育てることはとても大変だったため、成長の節目に晴れ着を着せて神仏に報告、感謝し、これからも健やかに育つよう祈願するようになったのです。

そして無事に7歳を迎えると、神のうちから人間側に移り、神を祀る側の氏子となって社会の一員になりました。7歳で締める帯には、魂をとどめる意味もあります。

七五三はその子の人生で一度きりの通過儀礼。大事に過ごしてほしいと思います。